

## 大河・信濃川

日本で一番長い川が新潟県及び長野県を流れる信濃川だ。全長 367km。そのうち信濃川と呼ばれているのは新潟県域の 153km。残りの 214km は長野県を流れ千曲川と呼ばれている。

1905(明治 38)年に発刊された島崎藤村の「落梅集」の詩の中に「千曲川旅情の歌」がある。「小諸なる古城のほとり 雲白く遊子を悲しむ ……千曲川柳霞みて 春浅く水流れたり ただひとり岩をめぐりて この岸に愁いを繋ぐ」と。

近年では 1975 (昭和 50)年に五木ひろしが「千曲川」を歌っている。「♪～一人たどれば 草笛の音 いろ哀しき 千曲川 よせるさざ波 くれゆく岸に 里の灯ともる 信濃の旅路よ～♪」。この曲はこの年の NHK 紅白歌合戦の白組のトリとなった。

新潟県に入って信濃川は大河ゆえに古い昔より舟運が活躍していた。信濃川の下りには米をはじめ、たばこ、織物、下駄、薪などがあり、逆に新潟からの上りには、塩、茶、鮭、鱒、ごぎ等、海産物が中心に重要な生活・経済の運送路として利用された。これら当時の生活様式が理解できる。明治時代になると和船に代わる発動機船が主流となり、格段の速さで往来出来るようになるものの、時代は鉄道、自動車による陸上輸送に取って代わっていった。1959 (昭和 34) 年を最後に信濃川の舟運はその長い歴史に幕を下ろした。

撮影 2013 年春

